

スタートした国家資格『公認心理師』のこれから

座長 壁屋 康 洋[†]第73回国立病院総合医学会
(2019年11月9日 於 名古屋)

IRYO Vol. 75 No. 3 (241-243) 2021

要 旨

公認心理師法が2015年に成立、2018年の第1回試験を経て、2019年から心理職も国家資格を得た。本シンポジウムではこの機に公認心理師としての今後について検討した。本稿では、本誌への掲載ができなかった藤塚先生と村上先生の発表を中心に、シンポジウムの内容を紹介する。

松本千寿先生からは、厚生労働省公認心理師制度推進室において公認心理師の制度設計に携わった経験から制度化の背景について、また国立病院機構医療課長の立場から国立病院機構で公認心理師に求められる役割と課題が示された。

心理職としては待ち望んだ国家資格であるが、国家資格化による変化について、実際に在職中の国家資格化を体験した言語聴覚士（ST）の立場から、国立病院言語聴覚士協議会会長の藤塚史子先生に紹介いただいた。STは二つの職能団体の対立もあって国家資格化が遅れた。国家資格化直後は何も変わらなかったが、協議会を設立し、仕事内容等をアピールすること、併せて診療点数の増加や施設基準に加わったこと等で人員が急増した。しかし依然として知名度を上げること、複数配置を増やすことが課題として挙げられた。

古村健先生からは公認心理師としてのスキルアップ・研修・他職種へのアピールを目指した取り組みとして、心理療法士協議会で作成した階層別達成目標が紹介された。

さいがた医療センター院長特任補佐の村上優先生からは、指定討論「国家資格後の心理療法士へのメッセージ」として、①必要な人に、②必要な時に、③必要なところで、④いつでも、⑤有効に、⑥安全に提供できることが公認心理師の到達目標として示され、医療のあらゆる局面に関わる国立病院機構（NHO）の特徴と先駆性、NHOの心理療法士のネットワークを活かし、水平的な多職種連携にて医療を豊潤化する役割が求められた。4人の登壇者からは、専門職としてのアイデンティティと多職種チーム医療、専門職のネットワークの確立が共通したテーマとして示された。

キーワード 公認心理師、専門職としてのアイデンティティ、専門職のネットワーク、多職種チーム医療

国立病院機構榊原病院 心理療法室 [†]心理療法士（臨床心理士）

著者連絡先：壁屋康洋 国立病院機構榊原病院 心理療法室 〒514-1292 三重県津市榊原町777

e-mail: kabeyay@ybb.ne.jp

(2020年1月27日受付、2020年9月11日受理)

The Next Stage of Clinical Psychologists after the Implementation of Japanese National Qualification for, "Certified Public Psychologists"

Kabeya Yasuhiro, NHO Sakakibara Hospital

(Received Jan. 27, 2020, Accepted Sep. 11, 2020)

Key Words : certified public psychologist, identity as profession, professional networking, multidisciplinary team